

京都大学 大学院人間・環境学研究科

Graduate School of Human and Environmental Studies

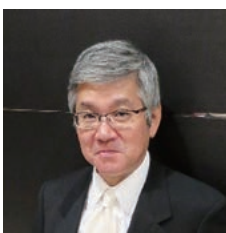
2024-2025(令和6-7)

「人環」は軽やかに学術越境します



研究科長からのメッセージ

人間・環境学研究科 研究科長
浅野 耕太



吉田山麓、五山の送り火で知られる東山如意ヶ嶽の大的字を望む吉田南構内に所在する、人間・環境学研究科は2023年4月1日より、学術越境を旗印に新たな一步を踏み出しました。

ふるきを辿れば、明治2年に大阪に置かれた舎密局（せいみきょく）、洋学校そして自由の校風で知られる旧制第三高等学校へとつながるのが京都大学の旧教養部です。その教員組織を母体に、1991年に学部を持たない独立した大学院人間・環境学研究科が、翌1992年に京都大学の第10番目の学部として総合人間学部が設置されました。爾来、大学院人間・環境学研究科と総合人間学部は緊密な連携をとり、先端的な学術研究、学部・大学院の高度な教育、多彩な地域貢献を行ってきました。やがて両部局は2003年に一体化され、人間・環境学研究科は総合人間学部を学部とする大学院となりました。またこの教員組織は、人文、社会、自然科学の広範な専門分野において、京都大学の全学生に向け教養教育・基礎教育の授業も担当しています。

京都大学における大学院人間・環境学研究科の草創は、学問が専門分野ごとに細分化され、深化してゆく一方で、社会の急激な変化に伴って、新たに生まれた、あるいは深刻さを増しつつある諸課題に果敢に挑戦していくため、専門分野の垣根を越えた交流が必要であるという時代の要請に基づくものでした。

この時代の要請は今となっても決して過去のものとはならず、ますます強くなっているとさえ思えます。時代の要請にこたえ、社会課題の解決につながる教育研究が一層促進されるように、このたび専攻の垣根をなくし、講座を再編するとともに、学術越境の触媒役を担う学術越境センターを設置しました。センターの名称に掲げた学術越境は、学際融合とは異なり、新たな専門分野を生み出すことを目指すのではなく、人間・環境学研究科が尊重してきた専門分野を今まで以上に深く極めたいと、従来の専門分野の枠組みに拘泥せず、その境界をしなやかに越え、課題解決のために連携しようとするものです。

大学院人間・環境学研究科は、専門分野において独創的な研究を遂行しうる能力に加えて、既存の知の体系に安住するのではなく、創造的越境をなしうる知的軽やかさを備えた人物を育成することを目指します。

目次

研究科長からのメッセージ

1. ヴァージョンアップされた人間・環境学研究科「人環」へようこそ	1
2. 教員構成	2
3. 10講座による研究教育体制	3
1 数理・情報科学講座	4
2 人間・社会・思想講座	4
3 芸術文化講座	5
4 認知・行動・健康科学講座	5
5 言語科学講座	6
6 東アジア文明講座	6
7 共生世界講座	7
8 文化・地域環境講座	7
9 物質科学講座	8
10 地球・生命環境講座	8
4. 学術越境のための新しいカリキュラム ...	9
5. 学術越境センター	10
6. 国際交流	10
7. 人材育成——修了生の進路——	11
8. 入試について	12
9. アクセス	13

1. ヴァージョンアップされた人間・環境学研究所「人環」へようこそ

● ヴァージョンアップし続ける研究科

1991年創設の本研究科は、30年余にわたり多様な学問分野の専門家を集め、学際的な学問の実現を目指してきました。環境問題、エネルギー問題というような、現代社会が解決を求める課題の多くは、単一の学問の中で解決できるようなものではありません。自然科学にとどまらず、社会科学の取り組みが必要なだけでなく、さらには人間観・自然観の革新というような、人文知にかかわる取り組みも必要とされています。時代が学問に求める課題解決は次々と現れ、それに取り組む大学も現代社会の要請に応じて常に変わっていかねばなりません。30年余の歴史を持つ人間・環境学研究所は、時代の要請にあわせ何度か変革を遂げてきました。そして2023年度より、人間・環境学研究所はまた新たな深化を遂げることになりました。学際的研究の発展形がここにあります。新しくヴァージョンアップされた「人環」へようこそ。一緒に学問の新しい姿を作り出していきたいと思います。

1991年4月	大学院人間・環境学研究所設置。第1期生入学
1993年3月	教養部廃止
1993年4月	総合人間学部第1期生入学
2003年4月	総合人間学部の4学科を廃止し、総合人間学科1学科5学系に改組
2003年4月	総合人間学部との一体化に伴う研究科の改組により、共生人間学専攻、共生文明学専攻、相関環境学専攻を設置
2023年4月	大学院人間・環境学研究所の3専攻を人間・環境学専攻1専攻に統合

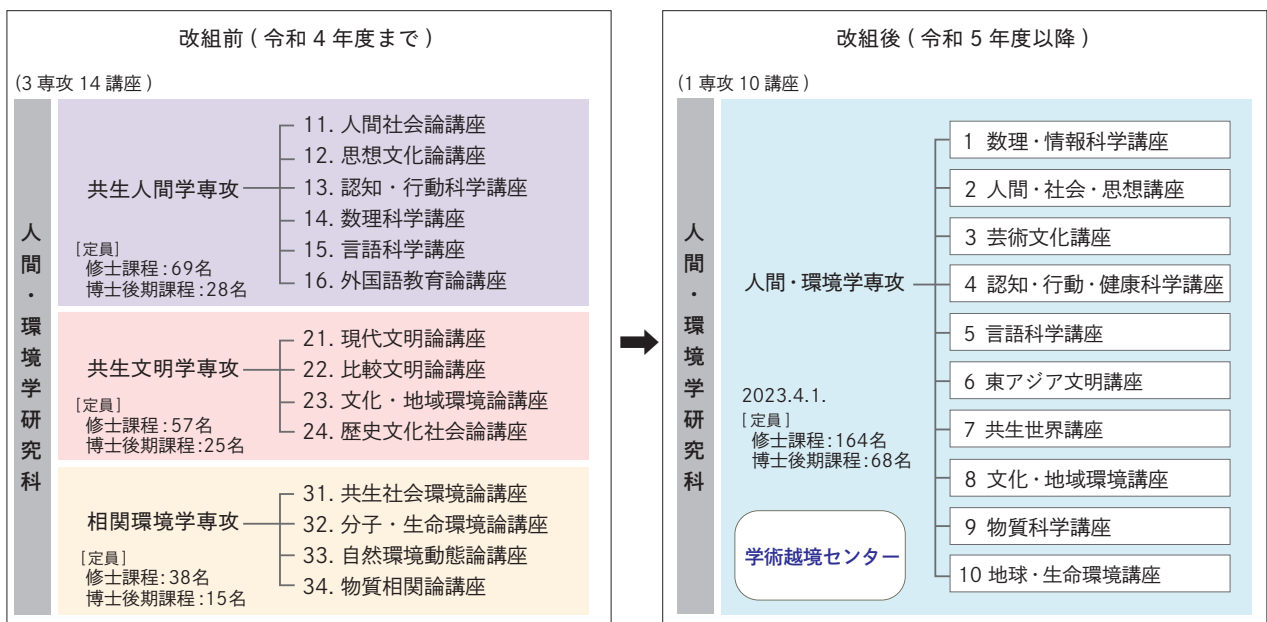
● 研究科の目的

人間・環境学研究所では、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の越境を通して、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、近い将来だけではなく遠い未来をも見据えた先駆的研究の推進、教育研究における国際連携の強化、自然科学・人文科学・社会科学の垣根を越えた総合的な産学官連携に資する研究と教育によって、人間及び環境の問題に対して広い視野と高度な知識、高い倫理性と強い責任感をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的としています。

● 「学術越境」とは何か

「学術越境」とは確かな専門に軸足を置きつつ、問題解決のために分野の垣根を越えて連携を深めて行くことです。専門をまたいで学術分野間で連携を図ることで、これによりさまざまな問題の解決を目指します。「学術越境」が本研究所が2023年度に行った改組の理念です。

● 令和5年度人間・環境学研究所改組について（令和5年4月改組）



2. 大学院人間・環境学研究科 教員構成

2024（令和6）年4月1日現在

留 国際交流・留学生担当教員 流 流動教員（大学院地球環境学堂）併 併任教員（国際高等教育院）特 特定教員 協 協力教員（協¹人と社会の未来研究院
協²国際高等教育院 協³国際高等教育院附属国際学術言語教育センター 協⁴人文科学研究所 協⁵環境安全保健機構 放射線管理部門
協⁶医生物学研究所 附属感染症モデル研究センター）客 客員教員

専攻	講座名	教授	准教授	講師	助教
人間・環境学専攻	1 数理・情報科学	足立匡義 上木直昌 木坂正史 角 大輝 立木秀樹 日置尋久	櫻川貴司 ディレクト ^留 , マシユ ^留 林 雅行	ティース, ホルガー ^特	
	2 人間・社会・思想	青山拓夫 安部 浩 ^併 石岡 学 大倉得史 倉石一郎 佐藤義之 柴田 悠 戸田剛文 永田素彦 西山教行 細見和之 吉田 純	小林哲也 タジャン, ニコラ 松本卓也		
	3 芸術文化	池田寛子 勝又直也 木下千花 ^併 兼山智成 小島基洋 菅 利恵 吉田恭子	上田泰史 合田典世 霜田洋祐 須藤秀平 田口かおり 武田宙也 中筋 朋 仁井田千絵		
	4 認知・行動・健康科学	久代恵介 ^併 神崎素樹 小村 豊 齋木 潤 月浦 崇 林 達也 船曳康子 内田由紀子 ^{協1}	江川達郎 秋生翔大		森山真衣 山本洋紀
	5 言語科学	河崎 靖 谷口一美 守田貴弘 塚原信行 ^{協3} 柳瀬陽介 ^{協3}	ギンスバーク, ジェイソン 中森誉之 西脇麻衣子 ピーターソン, マーク 堀口大樹 金丸敏幸 ^{協3} 笹尾洋介 ^{協3} ダルスキー, デビット ^{協3} 横森大輔 ^{協3}		
	6 東アジア文明	太田 出 小倉紀蔵 熊谷隆之 佐野 宏 須田千里 辻 正博 長谷川千尋 松江 崇 道坂昭廣 ^併 吉江 崇 大原嘉豊 ^{客1} 尾野善裕 ^{客1}	小野寺史郎 津守 陽 福谷 彬 永島明子 ^{客1}	カク, ミンソク ^{客1} 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館	
	7 共生世界	浅野耕太 小畑史子 齋藤嘉臣 佐藤公美 佐野 亘 大黒弘慈 森口由香 広井良典 ^{協1} (兼) 縄田浩志	菊池亨輔 柴山桂太 徳永 悠 ^流 福元健之 見平 典 三代川寛子	バッテ, パッ ラヴィ	鶴飼大介
	8 文化・地域環境	岩谷彩子 ^併 風間計博 小島泰雄 中嶋節子 山村亜希 ^流 石井美保 ^{協4} 清野孝之 ^{客2} 玉田芳英 ^{客2} 馬場 基 ^{客2}	久木元美琴 前田昌弘 デアントーニ, アンドレア ^特 山崎 健 ^{客2} 脇谷草一郎 ^{客2}	^{客2} 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	梶丸 岳 藤原 学
	9 物質科学	内本喜晴 木下俊哉 小松直樹 高木紀明 田部勢津久 ^流 津江広人 藤田健一 藤原直樹 森成隆夫 吉田鉄平 吉田寿雄 中村敏浩 ^{協2} 舟橋春彦 ^{協2}	廣戸 聡	浅沼 尚	大槻太毅 小山田 明 小西隆士 佐野光貞 許 健 ^流 新林卓也 高橋弘樹 山本 旭 渡邊雅之
	10 地球・生命環境	石村豊穂 ^併 市岡孝朗 ^流 小木曾 哲 瀬戸口浩彰 西川完途 ^流 宮下英明	加藤 護 土屋 徹 角山雄一 ^{協5} 三浦智行 ^{協6}		桑野太輔 阪口翔太 佐藤博俊 幡野恭子 藤井悠里 原 壮大朗 ^特
学術越境センター	縄田浩志				

外国人教師	(ドイツ語)トラウデン, ディーター
-------	--------------------

プログラム, プロジェクト等 特定教員	渡邊稔樹 (特定助教)
------------------------	----------------

3. 10 講座による研究教育体制

1 数理・情報科学講座

- ・実解析・調和解析に基づく数理現象の究明
- ・カオス、フラクタル、ランダムネスの解析
- ・人工知能、データサイエンス、メディア情報処理の理論と応用
- ・計算の論理と数理

2 人間・社会・思想講座

- ・人間存在の哲学的・社会思想史的研究
- ・現代社会の原理的・実証的研究
- ・発達と教育の原理的・実証的・歴史的研究
- ・人間の精神と病理の研究
- ・言語面からの人間、社会の研究

3 芸術文化講座

- ・人間の創造行為が有する意義の多角的探究
- ・AI時代における人間性の追求
- ・独創性と想像力に立脚した社会貢献
- ・未来を開拓するための思考力の育成

4 認知・行動・健康科学講座

- ・心理学・神経科学に基づく認知機能の究明
- ・身体運動の現象と理論の研究
- ・医学に基づく身体および精神機能の究明
- ・社会・文化・健康・発達の実践研究

5 言語科学講座

- ・生成文法、認知言語学、言語類型論などの理論言語学研究
- ・個別言語を対象とした記述的研究および通時的研究
- ・言語教育・外国語学習への応用的研究

6 東アジア文明講座

- ・東アジアの歴史的・文化的・社会的特性の解明
- ・東アジアの言語、文学、歴史、思想、芸術の分析
- ・東アジア諸地域間の相互交流の考究
- ・東アジアの文明と他地域の文明との比較研究

7 共生世界講座

- ・西欧近代主義の淵源・成果・問題の再検討
- ・グローバルおよびローカルの両次元における共生の模索
- ・新たな世界観の構築

8 文化・地域環境講座

- ・民族・文化・地域・空間・景観・建築・文化財の諸相の考察
- ・フィールドにもとづいた文化・地域環境の生成、展開、保全の分析
- ・現代社会における文化・地域環境の構築法の探究

9 物質科学講座

- ・新機能物質、高機能触媒の創成
- ・新しい分析手法、測定装置の開発
- ・物質の性質を支配する物理法則の解明
- ・物質とエネルギーの変換機構の解明

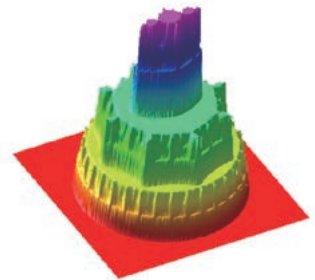
10 地球・生命環境講座

- ・地球内部と表層環境の変動原理の探究
- ・地球・惑星・衛星の形成と進化過程の解明
- ・生物の多様性および生態系の研究
- ・生物機能の解明とその利用

1. 数理・情報科学講座

微分方程式論、力学系、確率解析等の解析学を中心とした数理学と、計算理論から人工知能、視聴覚情報処理までの幅広い情報科学

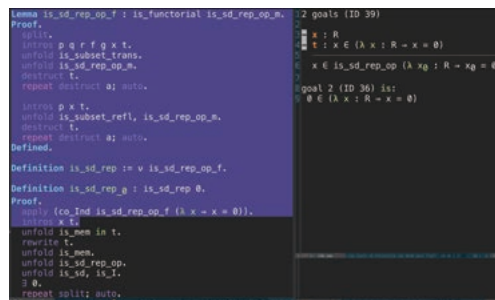
解析学的手法を主に用いて、さまざまな現象の変動過程の数理解造の解明をめざすとともに、数学と計算概念の関心の理論からデータサイエンス、メディア情報処理まで、情報科学の諸問題に関して理論と応用の両面から考察し、探求します。常微分方程式、偏微分方程式、確率微分方程式、確率過程、離散力学系、複素力学系、カオス・フラクタル理論などを用いて記述されるさまざまな数理的現象を解析します。情報科学においては、機械学習、データサイエンス、メディア情報処理についての理論と応用、またパズル・ゲームの数理、量子計算などの諸問題について探究します。さらに、プログラミング言語理論、数理論理学、証明支援系、圏論、記述集合論などを通じて、計算の本質、特に数学の中に現れる計算概念に関して追究します。



フラクタルウェディングケーキ
(ランダム複素力学系のオブジェ)



4次元ドームの制作



形式的証明からプログラムを抽出する研究



深層学習に基づく
テニスマット先端位置の追跡

2. 人間・社会・思想講座

人間存在とその思想、社会の原理的究明にもとづいて、言語・思想を介して社会を理解し生きる人間の具体的な行動や発達を解明する

人間は世界や他者、そして自己自身と関わりつつ社会を構成して生きる存在ですが、人間の言語、思想、社会は人間の産物として人間に事後的に付加されるだけのものではありません。それらはむしろ人間自身とその社会との関わりを根本から規定し、性格付けるものです。当講座はこの言語・思想的でもあり社会的な存在でもある人間、および人間と社会との相互交渉について、根源まで遡って原理的な究明をおこないます。また、原理的究明を踏まえて個別の社会のあり方や社会内の人間の具体的な行動や発達の詳細、さらには病理的なあり方まで視野に収めて実証的研究を展開するとともに、その研究の実践への応用を試みます。



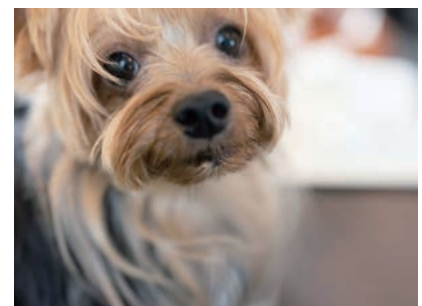
国際シンポジウム



授業風景



東日本大震災：被災者の語りを聴く



動物倫理

3. 芸術文化講座

小説、詩、演劇などの文学作品から映画、舞台芸術、美術、音楽に及ぶ 広範な創造行為を対象とする総合的な芸術研究

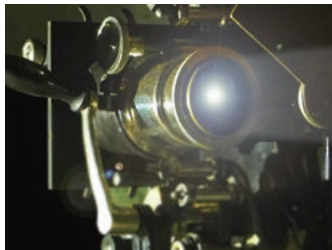
本講座は、芸術文化を本質的な人の営みとしてとらえ、その研究を通じてあらたな世界と思考を探究することをめざしています。

イギリス・アメリカを起点として世界に広がる英語圏文学、およびドイツ語圏とフランス語圏をはじめとして多言語文化を基盤とするヨーロッパの文学、さらにはヘブライ文学を視野に入れ、芸術の本質と未来の可能性を探究します。

小説、詩、演劇などの文学作品から映画、舞台芸術、音楽、美術まで、様々なジャンルの創造行為を対象とする総合的な研究を行います。文化的・社会的・思想的背景に留意しつつ、個々の作品をダイナミックで立体的なものとして浮かび上がらせるため、文芸批評、演劇理論、映画理論、芸術哲学を学び、相乗的な視野の拡張をめざしています。ローカル・グローバルの両側面に光を当てることによって個々の作品の特殊性と普遍性を解明し、異なる文化の共生を模索、展望します。



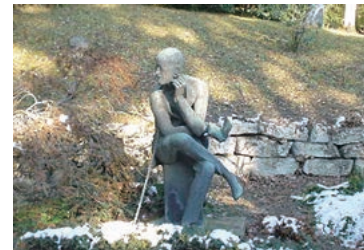
The Winter's Tale (英語上演)
2019年1月6日
於人間・環境学研究科地下講義室
京都大学総合人間学部・舞台芸術論と韓国・順堂大学演劇部の共同上演



映写機 牧野教育活動写真製作所製
(1921年頃)



フランツ・ヒュンテン『ピアノ教本』
作品60第3版(1833年頃)の口絵

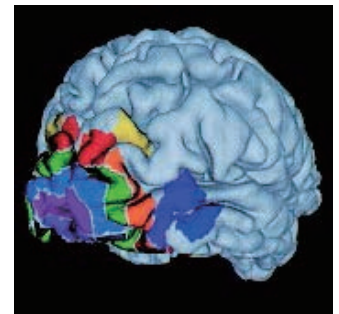


ジェームズ・ジョイス像
(チューリヒ(Zurich Switzerland)フルンテルン墓地)

4. 認知・行動・健康科学講座

認知機能、運動制御、身体と精神の健康等に関する研究を融合した 総合的な認知・行動・健康科学研究

認知・行動・健康科学講座では、神経科学、認知科学、心理学、生理学、運動科学、健康科学、運動医科学、精神医学などのさまざまな学問を基盤として、精神と身体が担う諸機能のメカニズム、発達過程、形成方法に関する基礎的研究と、健康づくりとスポーツ活動に関する実践的研究を行います。さらに、加速する情報化社会、生命・文化の多様化、人と機械の共生のあり方など、社会の変化にともなう人類の諸課題についての総合的な研究と実践活動を展開していきます。これらの成果をもとに、人類が生命活動・健康・発達をより良く実現していくための方策と手段を探究します。



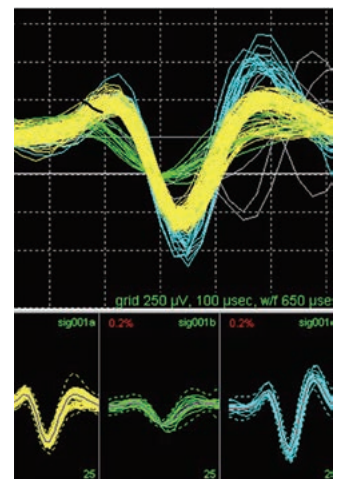
視覚の脳地図



行動観察と発達支援



月面歩行を模擬した動作中の筋活動と動作

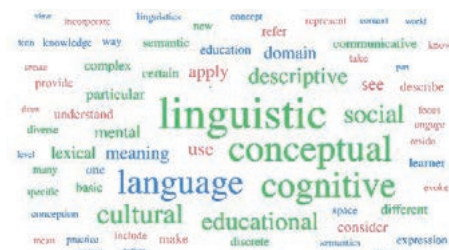


神経細胞の電気活動

5. 言語科学講座

言語理論、言語記述、言語教育・外国語学習への応用から、言語の諸側面にアプローチし、言語の本質を多角的に捉える

言語は人間の最大の特質であり、さまざまな知的な営みに欠かすことのできないものです。本講座は、多角的に言語の本質を理解するため、理論言語学、個別言語・記述言語研究、言語教育の各領域を三本柱として研究を展開しています。理論言語学の領域では、生成文法、認知言語学、言語類型論、相互行為言語学、コーパス言語学などのアプローチにより、言語の認知的・社会的機能を明らかにすることを目的として研究を行っています。個別言語・記述言語研究の領域では、英語やドイツ語、フランス語、ロシア語などの言語を対象とし、歴史的な成立過程の調査や言語間での比較・対照を行うことにより、言語の普遍性と多様性について探求しています。言語教育の領域では、主に英語やスペイン語、日本語といった言語を外国語として習得する際に学習者が直面する課題に取り組み、外国語学習のメカニズムやプロセス、制度を認知的・心理的・社会的観点から研究しています。

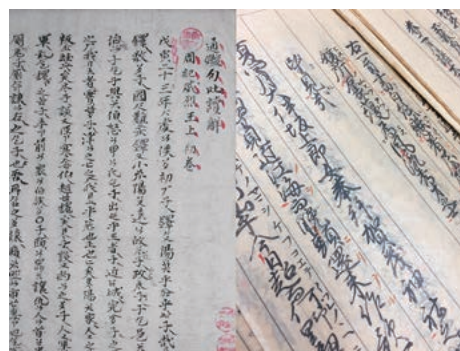


アメリカの空港の保安検査場での多言語表記

6. 東アジア文明講座

歴史的・文化的・社会的特性の解明を基軸とした東アジア文明の総合的な研究

東アジアの諸地域は、地域間の活発な交流によって発展し、全体としてひとつの政治圏、社会経済圏、文化圏を形成してきました。東アジア文明講座では、日本語学・日本文学、中国語学・中国文学、日本史・中国史、中国思想・朝鮮思想、博物館文化財学といったそれぞれの専門研究領域を基礎としながら、それらを分野横断的に融合させることによって、東アジアの諸地域で育まれた言語、文学、歴史、思想、芸術を通時的かつ共時的に考究していきます。それを通して、西欧文明とは異なる東アジアの歴史的・文化的・社会的特性を総合的に解明することを目指します。東アジア文明といった視点を基軸として、歴史と文化の相互交渉的な関係を立体的に捉えるような研究を推し進めていきます。



(左)『資治通鑑』を読み下した朝鮮時代の句吐資料
(右)『万葉集』巻六の透写資料



京都国立博物館における所蔵作品を用いた授業風景



観光客でにぎわう南京の中山陵（孫文の墓）

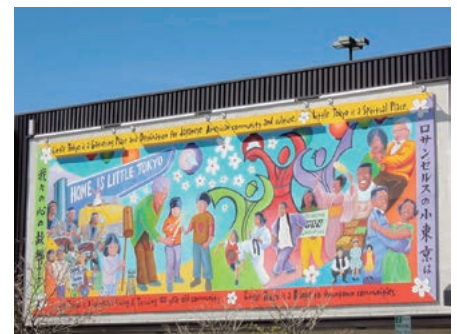
7. 共生世界講座

人文・社会諸科学の領域横断的アプローチによる、持続可能な共生世界・共生社会の実現に向けた総合知の創出

持続可能な共生世界・共生社会の実現の可能性とその難しさに向き合いながら、共生の上に成り立つ新たなグローバル・コミュニティおよびローカル・コミュニティの構築に向けた社会制度・社会関係のあり方を、多元的に考究します。そのために、本講座では、国際関係・外交関係、世界の諸地域の歴史・社会（アメリカ・ヨーロッパ・インド等）、経済・資本制システム、環境・資源、移民、労働関係、公共政策・民主主義、メディア、憲法・司法システム等、幅広い事象に着目します。その際、政治論・政策論・外交論・経済論・環境論・法律論・社会論・歴史論・思想論等を、領域横断的に相関させることにより、上記目的に寄与する総合知を創出します。また、それを実践し、活用できる人材を育成します。



英国議会議事堂時計台



ロサンゼルス・リトルトーキョーの壁画

8. 文化・地域環境講座

フィールドワークを方法論の基軸として、文化・地域環境の生成、展開、保全を研究し、現代社会における文化・地域環境の構築法を探究する

長い歴史的過程のなかで育まれてきた固有の民族・文化・地域・空間・景観の特性や居住の諸相を「文化・地域環境」として捉え、フィールドワークを方法論の基軸として、その生成、展開、保全の諸過程や現状を解明します。そのうえで、現代社会における文化・地域環境の構築法を探究します。文化人類学、建築学・都市計画学、人文地理学、文化財学といったフィールドにもとづいた学問を横断し、文化・地域環境に関する基礎研究と、環境構築に関する実践研究を統合した研究教育を行います。文化や地域環境のあり方をふまえて、都市開発や町づくり、地域活性化、文化遺産・景観の保全と活用、異文化・地域間交流の推進、地域課題の解決に資する研究者・指導者・実務者を育成します。



ラオスでインフォーマントとともに
稲刈りをする調査者



長浜市の町家での調査報告会



遺跡から出土した資料の分析



明治12年の大阪市街地図（部分）

9. 物質科学講座

物質の構造・機能・分析・物性に関する実験的および理論的研究

当講座では、物質の基本構成要素である電子、原子をはじめ、水素、二酸化炭素などの小分子から、有機・生体高分子、金属錯体、さらには、ナノ材料、無機固体材料、有機分子性結晶に至るまで、サイズ、形状、構造が異なる多様な物質系を研究対象としています。それらに対し、1) 構造・機能の創成、2) 分析手法、測定装置の開発、3) 物性を支配する物理法則の解明、4) 物質とエネルギーの変換機構の解明、など様々な側面から新規性を追求しています。

例えば、1) では三次元 π 共役有機分子（図1）、有機分子性結晶、一次元・二次元ナノ材料などの新規構造体の創成や金属錯体触媒、固体触媒、医療用ナノ材料、電池材料、光機能性材料の高性能化を目指します。

2) では、質量分析、核磁気共鳴、光電子分光（図2）、X線吸収分光、発光分光、走査トンネル顕微鏡などの各種分析手法や測定装置系が含まれます。

3) では、高温超伝導、強相関電子系、冷却原子系、低次元物質などの新規物性現象の発見と発現機構の解明を目指し、実験・理論の両面から基礎的な物性研究を行います。

4) では光触媒・光熱変換触媒（図3）、燃料電池・電池材料、光機能性材料などのエネルギー変換機構の解明を目指しています。

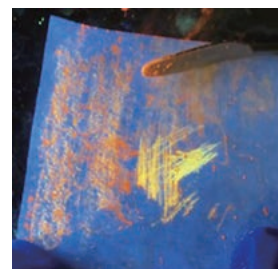


図1 擦ると色が変わる色素

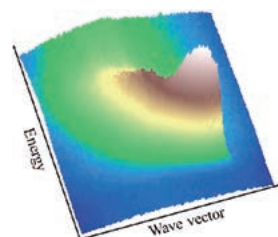


図2 光電子分光で測定された高温超伝導体の電子構造

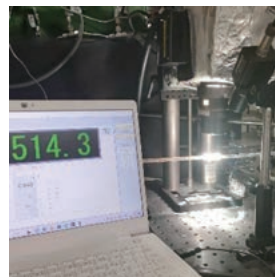
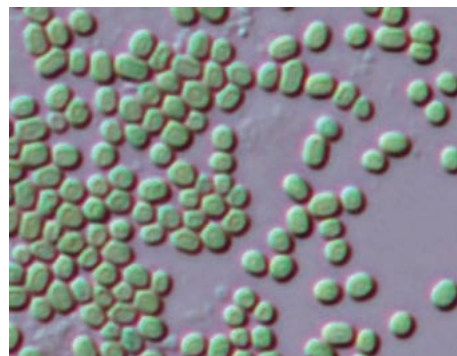


図3 太陽光利用を目指した光熱変換触媒の実験

10. 地球・生命環境講座

マクロとミクロ、理論と現象を包含する視座からの地球惑星の変動と進化、生物の種間関係および生命機能の研究

自然と人間とのよりよい共生関係の構築をめざして、宇宙や地球の過去・現在・未来、地球の固体圏・流体圏の相互作用および生命圏との動的相関や、生物機能について探究します。地球物理学、地質学、古生物学、地球化学、惑星科学などの知見と手法を用いて、惑星・衛星の形成過程、地球内部や表層のダイナミックな挙動、様々な時間スケールでの物質進化と環境変動を解明することを目指します。また、生物の種間関係から生物の多様性や生態系の安定性に寄与する機構を解明することに取り組みます。さらに、環境への適応やエネルギー獲得・変換の機構などの生物機能の知見と合わせて、生物を含む自然資本の健全な利用方法についての教育研究を行います。



光合成により酸素を発生するシアノバクテリアの一種



蛇紋岩地帯の植生と蛇紋岩の風化土壌



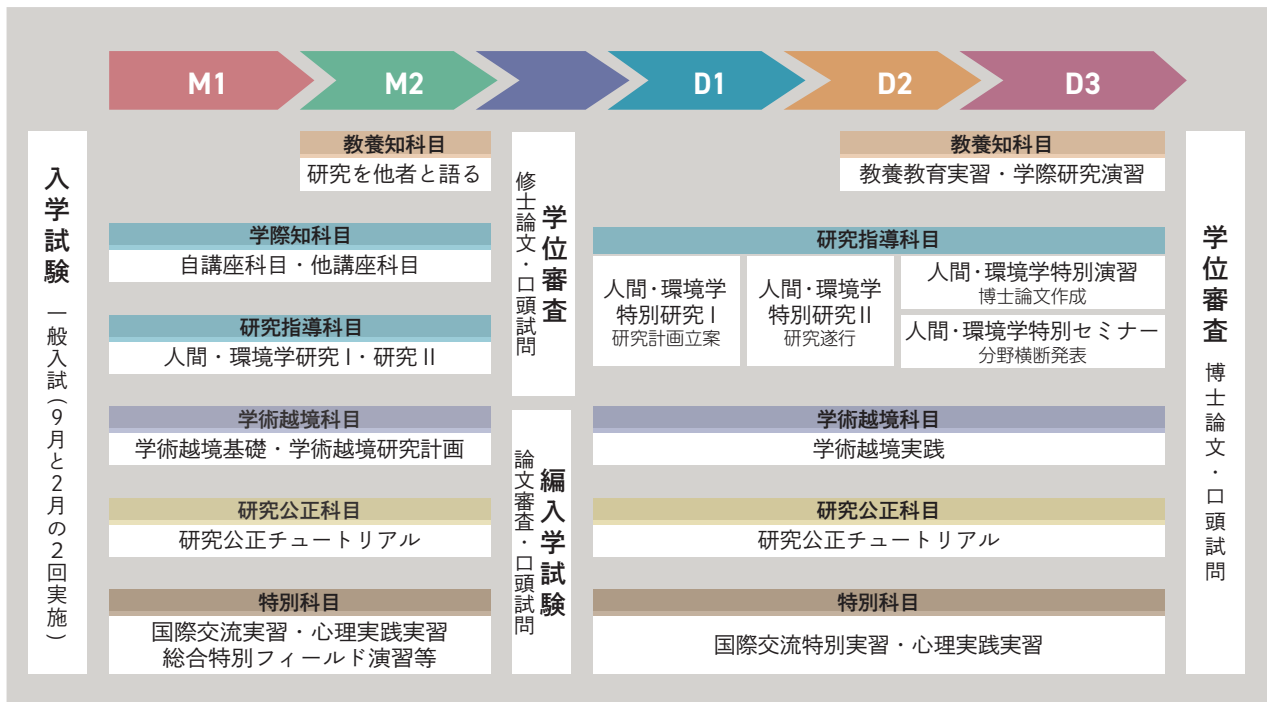
中新世の化学合成生態系に見られる貝類の化石

4. 学術越境のための新しいカリキュラム

専門をまたいで学術分野間で連携を図る「学術越境」が2023年度に行われた改編の柱です。学術越境を旨とすることは専門性を軽視することではありません。専門性を深めなければ越境も実りあるものになりません。確かな専門性に軸足を置きつつ、問題解決のために分野の垣根を越えるのが「学術越境」です。改編にあわせ、こうした学術越境の精神を備えた研究者・社会人を育成するためのカリキュラムを組み立てました。

● 教育カリキュラムの特徴

- 特徴 1 充実した専門教育
- 特徴 2 専門を共有しない他者に専門学術を伝える力としての教養知の涵養
- 特徴 3 副指導教員制による学生主導の研究指導
- 特徴 4 分野横断の研究発表による自身の専門研究の相対化
- 特徴 5 国内外施設での研究・研修
- 特徴 6 学術越境プログラムによる学術架橋力の養成



● 授業紹介

- ◆「教養知科目」：専門を共有しない他者に専門学術を伝える力としての教養知の涵養
この科目の代表的なものが「研究を他者と語る」です。教養教育の本質である専門知識を持たない他者（他講座の学生）に対して専門知のエッセンスを伝える力を養うカリキュラムを実施します。専門の異なる学生とお互いの研究についての議論を深めることで、狭い専門分野に閉じることなく、自身の専門知を相対化できる視野の広い学際知を備えた人物を養成します。
- ◆「学際知科目」：専門を極めつつ学際的視点をとる
中核となる専門学術領域において、視野の広い専門知である「学際知」を学ぶ科目です。自講座科目を中心に近接分野の知識を並行して学ぶことで学際的な視点からの専門知の獲得が目ざされます。他講座科目の履修も学際的視点形成のため奨励されます。
- ◆「学術越境科目」：自他の専門知の架橋
自身の専門知を異なる専門知と架橋し、さらに産官、国際機関へと架橋していくための科目です。この科目には国際性を磨く授業、インターンシップの実践が単位として認められる授業もあります。

5. 学術越境センター

本研究科内に新しく設置された学術越境センターは、学術分野間の境界、産官学の境界、国際間の境界をそれぞれ越えた連携を実現するためのサポート組織です。学生諸君を国際交流や越境教育、就職活動等の面で強力にサポートします。

● 学術分野間の交流

学術越境の理念のもと、教育・研究両面での学術交流が目ざされます。学術越境センターはその実現を強力に後押しします。特徴的な取り組みとして、「学術越境プログラム」をあげることができます。このプログラムは希望する学生のみにも適用されるもので、学術越境的な研究や産官学連携ないし国際連携が特別に必要な研究活動に特化した教育プログラムです。審査に合格した学生が、本人の計画に沿って複数の教員の手厚いサポートのもとで計画を推進します。

● 新しいキャリアパスの開拓

現代社会の諸問題は学術越境的な取り組みを必要としています。その要請に応える人材の育成は進んでいません。また、そういう人材が雇用される例は、とりわけ文系博士号取得者においてはまだ乏しいと言えます。しかしながら産業界でもこのような人材はますます必要になってくることは間違いありません。学術越境センターはこのような新たなキャリアパスの開拓に力を入れます。インターン先の開拓もその一環です。修了後の進路については11ページもご覧ください。

● 国際交流の推進

本研究科では以前から国際化に力を入れ、海外留学を積極的にバックアップすると共に、例年多くの留学生や海外の研究者を受け入れ、国際的学術交流を活発におこなってきました。今後は学術越境センターのもとで、今まで以上に活発な交流が期待されます。

6. 国際交流

● 留学生の受け入れ

本研究科では、2023年5月1日現在、202名の留学生が在籍し、その出身地は世界22ヶ国/地域に及んでいます。右の表をご覧ください。

● 学生の留学支援

新設の学術越境センターは、学生の皆さんの海外留学を今まで以上に強力に支援します。

● 研究者の交流

毎年何人もの海外の研究者が招へい研究員（客員教授・客員准教授）として本研究科に長期間滞在して、本研究科の研究者と共同研究をおこなっています。

● 国際交流セミナー

招へい研究員の方には、各自の研究成果を研究科の学生やスタッフに紹介して頂くため、先生方のご講演と懇親会で構成されたセミナーを開催しています。みなさん、入学後は機会をとらえ積極的に参加して下さい（写真は第83回国際交流セミナー、トルコ・エルジェス大学教授、エルデミール先生の講演の様子）。



留学生受入状況

(2023 (R5) 年5月1日現在)

国・地域	修士課程	博士後期課程	非正規生	計
アジア				
インドネシア共和国		1		1
タイ王国		1		1
大韓民国	3	7	1	11
台湾		6	1	7
中華人民共和国	76	63	21	160
パキスタン・イスラム共和国			1	1
ベトナム社会主義共和国		1		1
マカオ	1			1
マレーシア		1		1
北米				
アメリカ合衆国		4		4
中南米				
チリ共和国		2		2
ペルー共和国		1		1
欧州 (NIS 諸国含む)				
イタリア共和国			1	1
オランダ王国			1	1
ギリシャ共和国		1		1
ドイツ連邦共和国		1		1
フィンランド共和国			1	1
ポルトガル共和国		1		1
ロシア連邦	1	1		2
大洋州				
オーストラリア連邦		1		1
中東				
イラン・イスラム共和国	1			1
アフリカ				
エジプト		1		1
計	82	93	27	202

・在留資格が「留学」の学生のみを集計
 ・非正規生の内訳は、研究生（22名）・特別研究学生（4名）・特別聴講学生（1名）

7. 人材育成——修了生の進路——

● 本研究科が社会に送り出すのは次のような人物です。

- ・ 大学教員として学際知を領域外の他者にわかりやすく伝達する人物
- ・ 人文・社会科学と自然科学の融合による新学術領域創成の要となる人物
- ・ 産業界、行政組織において学際的専門知と現場を架橋して社会課題の解決に貢献する人物
- ・ 海外の大学や国際組織において異なる文化圏・言語圏の人々に学際知を伝える人物

● 本研究科で取得可能な資格

- ・ 中学校教諭専修免許状（国語、数学、理科、社会、英語）
- ・ 高等学校教諭専修免許状（国語、数学、理科、地歴、公民、英語）
- ・ 公認心理士資格試験受験資格

● 修了者・学位授与者数と修了後の進路

修士課程 学位授与の状況			
	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
共生人間学専攻	75	80	68
共生文明学専攻	38	37	37
相関環境学専攻	41	42	29
授与者数計	154	159	134
累計			4,077

博士後期課程 学位授与の状況				
		2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
課程博士	共生人間学専攻	21	16	15
	共生文明学専攻	14	14	13
	相関環境学専攻	15	15	8
	授与者数計	50	45	36
	累計			1,083
論文博士	授与者数	1	1	0
	累計			55

修士課程 修了者の進路			
	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
進学（大学院）	52	42	41
就職	81	96	73
その他（就職準備中ほか）	21	21	20
計	154	159	134

博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の進路			
	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
進学（大学院）	0	1	0
就職	51	33	35
その他（就職準備中ほか）	22	16	15
計	73	50	50

修士課程 修了者の就職状況			
(産業別)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
製造業	23	22	18
電気・ガス・熱供給・水道業	2	2	0
情報通信業・運輸・郵便業	21	37	24
卸売・小売業	3	5	5
金融業・保険業	3	5	3
不動産・物品賃貸業	1	0	1
学術研究・専門・技術サービス業	16	12	10
教育、学習支援業	5	6	3
医療・福祉	2	1	1
その他のサービス業	4	3	1
公務員	0	0	3
上記以外	1	3	5
計	81	96	74

博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の就職状況			
(産業別)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
農業・林業・漁業	1	0	0
製造業	2	2	2
情報通信業	3	0	1
卸売業、小売業	0	0	1
金融業・保険業	1	0	0
学術研究・専門・技術サービス業	3	4	0
教育、学習支援業	23	13	17
医療・福祉	0	2	0
その他のサービス業	2	1	1
公務員	2	2	0
上記以外	4	2	4
大学に届け出のないもの	10	7	9
計	51	33	35

(職業別)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
研究者	9	6	5
製造技術者（開発）	12	6	7
製造技術者（開発除く）	3	4	3
建築・土木測量技術者	1	1	1
情報処理・通信技術者	11	17	11
その他の技術者	1	2	1
教員（大学・短期大学・高等学校）	1	4	2
医療技術者	2	1	0
保健医療従事者	1	0	0
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台	1	2	2
管理的職業	4	3	5
事務・販売従事者	7	8	4
サービス業	1	8	2
生産工程従事者	0	0	0
輸送・機械運転従事者	0	0	1
その他・上記以外	27	34	30
計	81	96	74

(職業別)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
研究者	18	10	15
製造技術者（開発）	1	2	0
製造技術者（開発除く）	0	0	0
情報処理・通信技術者	0	0	1
教員（大学・短期大学）	11	7	4
教員（高等学校）	1	0	1
教員（その他）	0	0	1
医療技術者	0	2	0
管理的職業	0	0	1
事務・販売従事者	1	0	0
サービス業	0	1	0
上記以外	9	4	3
大学に届け出のないもの	10	7	9
計	51	33	35

8. 入試について

ここに述べるのは 2025（令和 7）年度入学試験の概要です。志願者は、必ず募集要項で詳細を確認してください。

● 募集要項

https://www.h.kyoto-u.ac.jp/entrance_exam/gr/application/（人間・環境学研究科 HOME > 入試情報 > 研究科 > 募集要項）
修士第 1 回入試と博士特別選抜試験については 4 月下旬に、修士第 2 回入試と博士編入学試験については 10 月に、研究科のホームページに掲載されます（募集要項一式のうち入学願書、封筒等を除いた部分になります）。

● 修士課程入学試験

2024 年 9 月と 2025 年 2 月の 2 回行われ、選抜試験は外国語科目試験、専門科目試験および口述試験により実施されます。

	第 1 回入試	第 2 回入試
日程	2024 年 9 月 11 日（水）・9 月 12 日（木）	2025 年 2 月上旬
願書受付期間	2024 年 7 月 12 日（金）～7 月 17 日（水） 午後 5 時必着	未定
募集人員	123 名	未定 （定員（164 名）、第 1 回試験の合格者数などをもとに決定）

以下は第 1 回入試に関するものですが、第 2 回入試においても同様に行われる予定です。

外国語科目試験	・第一志望教員の所属する講座のとり方によって A・B の 2 方式に分けて実施します。 【A 方式】試験第 1 日目に第 1 外国語、第 2 外国語の筆答試験を実施します。 2. 人間・社会・思想講座 3. 芸術文化講座 5. 言語科学講座 6. 東アジア文明講座 8. 文化・地域環境講座 【B 方式】2022（令和 4）年 4 月 1 日以降に受験した TOEFL/TOEIC のスコアで代用します。 1. 数理・情報科学講座 4. 認知・行動・健康科学講座 7. 共生世界講座 9. 物質科学講座 10. 地球・生命環境講座
専門科目試験	・専門分野（第一志望教員の指示する専門科目）についての学力を問います。第一志望教員の許可のもと、専門試験に論文試験の審査を加えることができる場合があります。
口述試験	・専門分野についての学力を口頭で問います。
その他	・3 年次修了者入学制度、社会人入学制度があります。 ・出願に先立って志望する教員との面談を希望する者は、研究科のホームページに公開されている教員のメールアドレス等に連絡してください。
過去問題の閲覧	・過去の入試問題（4 回分）を京都大学吉田南総合図書館で閲覧することができます。また、来館できない方に入手を希望される部分を PDF で提供するサービスを行っています。詳細は下記にてご確認ください。 https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/service/exam.html （京都大学吉田南総合図書館 HOME> サービス > 人間・環境学研究科修士課程過去の入試問題）

● 博士後期課程編入学試験

2024 年 9 月に博士後期課程編入学学生特別選抜試験が、2025 年 2 月に博士後期課程編入学試験が行われる予定です。前者は修士の学位を取得後一定期間（通算 2 年以上）の職業経験を有し、より高度な知識や技能を獲得して博士学位の取得を目指す者を対象とした特別選抜です。詳細はホームページをご覧ください。

● 授業料等

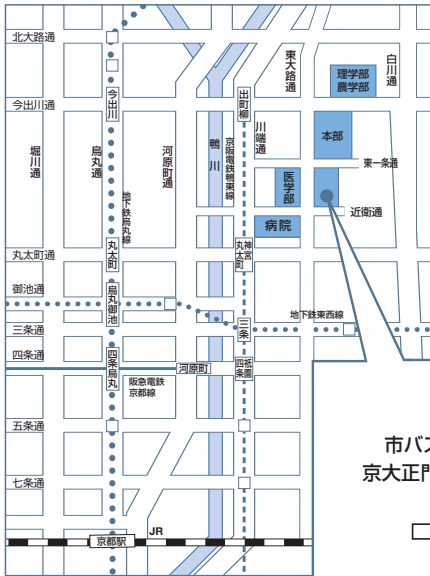
- ・検定料 30,000 円
- ・入学科 282,000 円 ※入学時に改定されることがあります
- ・授業料 535,800 円（年額） / 267,900 円（半期額） ※入学時、在学時に改定されることがあります

● 入試説明会

第 1 回大学院入試説明会が 2024 年 4 月 20 日（土）に開催されます（Zoom によるオンライン形式）。人間・環境学研究科における研究と教育、卒業後の進路、学生生活等を知っていただき、意欲のある多くの方の進学を期待して開催される大学院生募集のための説明会です。説明会では、私たちが知らせたい情報だけでなく、皆さんが知りたい事柄についてお答えすることができるように準備しています。第 2 回大学院入試説明会は 10 月に行われる予定です。詳細はホームページをご覧ください。

9. アクセス

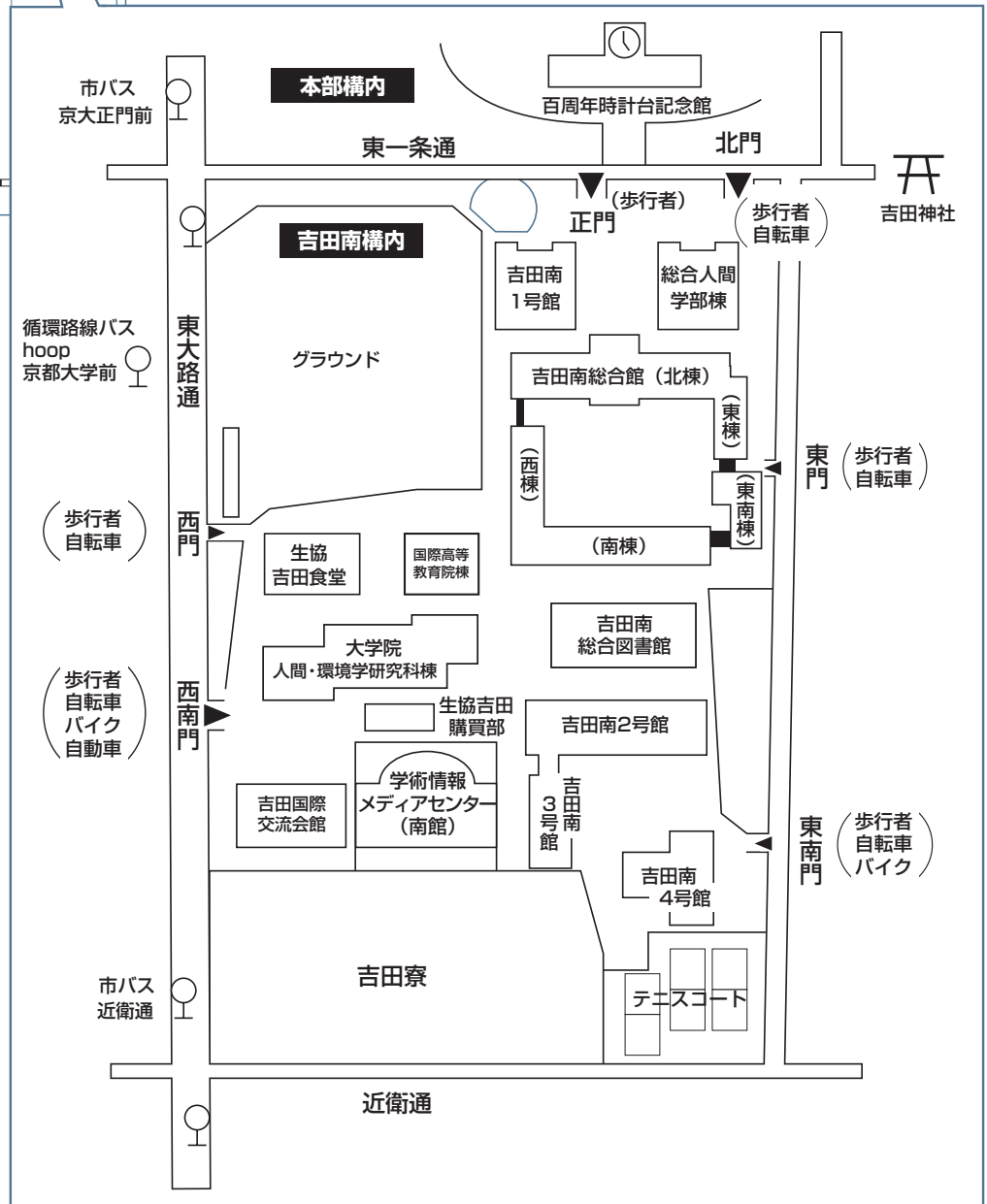
近辺地図・構内図



交通

タクシー：JR京都駅から約30分
市バス：230円

交通機関：乗車地	系統	経由・行き先	下車地
J R：京都駅前	D-2乗り場から206系統	三十三間堂 清水寺 祇園・北大路(バスターミナル)	京大 正門前
阪急：四条河原町	201系統	祇園・百万遍	
	31系統	高野・国際会館駅・岩倉	
地下鉄：烏丸今出川 京 阪：出町柳駅前 (2番出口/加茂大橋東詰停留所)	201系統	百万遍・祇園	
循環路線バス hoop (フープ) 230円区間内均一 (京都駅から医学部附属病院への 循環路線バス)	京都駅八条口 (E1のりば) ⇄ 京都大学前 走行経路：「京都駅八条口」→「四条河原町」→「河原町御池」→「京大病院前」→「京都大学前」→「川端荒神橋」→「河原町御池」→「烏丸御池新風館前」→「四条烏丸」→「京都駅八条口」 (詳細は、こちらをご確認ください https://hoopbus.jp/)		



京都大学大学院人間・環境学研究所

〒606-8501京都市左京区吉田二本松町
TEL:075-753-6533 (総務掛) FAX:075-753-2957
<https://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

